

第8分科会

入学前教育の現状とその効果の検証

報告者

棕本 洋 (大学コンソーシアム京都 高大連携推進室 / 立命館大学 理工学部 講師)

山本 由紀 (松本大学 キャリアセンター 主事)

森下 昌彦 (京都府立城陽高等学校 進路指導部長)

コーディネーター

葛城 大介 (京都薬科大学 数学分野 准教授)

文部科学省は、大学入学者選抜実施要項の中で、「各大学は、入学手続きをとった者に対しては、必要に応じ、これらの者の出身高等学校と協力しつつ、入学までに取り組むべき課題を課すなど、入学後の学習のための準備をあらかじめ講ずることが望ましい」と明示している。これが、指定校推薦やAO入試合格者等に対する入学前教育であり、現在、多くの大学で取り組まれている制度である。一般的な取り組み方法として、私の認識している限りでは、IT(場合によってはスクーリング)などを利用した高校までの補習やレポートの書き方などの指導である。本分科会では、どのような特色ある取り組みがなされているかなどの現状報告とその効果の検証および問題点などを、後半ではグループ・ディスカッションを行いながら、議論していきたいと思う。

<第8分科会>

入学前教育の現状とその効果の検証

参加人数	35名
報告者	
第1報告者	椋本 洋 (大学コンソーシアム京都高大連携推進室 / 立命館大学理工学部講師)
第2報告者	山本 由紀 (松本大学キャリアセンター主事)
第3報告者	森下 昌彦 (京都府立城陽高等学校進路指導部長)
コーディネーター	葛城 大介 (京都薬科大学数学分野 准教授)

分科会のねらい

文部科学省は、大学入学者選抜実施要項の中で、「各大学は、入学手続きをとった者に対しては、必要に応じ、これらの者の出身高等学校と協力しつつ、入学までに取り組むべき課題を課すなど、入学後の学習のための準備をあらかじめ講ずることが望ましい」と明示している。これが、指定校推薦入学者やAO入試合格者などに対する入学前教育であり、現在、多くの大学で行われている制度である。一般的な取り組み方法として、私の認識している限りでは、IT(場合によってはスクーリング)などを利用した高校までの補習やレポートの書き方などの指導である。本分科会の目的は、各大学でどのような特色ある取り組みがなされているかなどの現状報告とその効果の検証および問題点などを取り扱っていくことである。午前の部で、その事について3人の方に報告してもらった。午後の部では、午前中の報告に対する質疑応答および、少人数のグループに分かれてグループ・ディスカッションをしてもらい、各大学の取り組みや問題点などを議論してもらった。

報告の概要

まず葛城の方から、3名の報告者を選んだ経緯を説明した。

今年度9月に発行された「大学における学習支援への挑戦 リメディアル教育の現状と課題」と題した本を読んだのであるが、入学前教育の章¹を編集担当している椋本氏は、入学前教育の現状等の造詣が深く、入学前教育について包括的な話ができる人物であると考え、報告を依頼した。

読売新聞に掲載されている「大学の實力」の入学前教育の中で、「学ぶ意欲に火をつけたい」と題して松本大学の特色ある入学前教育が紹介²されており、松本大学に発表を依頼した。入学前教育について中心的に役割を果たすキャリアセンターで主事を務める山本氏が報告をすることになった。

「入学手続きをとった者に対して、これらの者の出身高等学校と協力しつつ」と大学入学者選抜実施要項にあったように、高等学校やその高等学校での科目担当者との連携は、入学前教育を円滑に行うにあたって大事である。高校側から見た入学前教育の現状の問題点や要望などの意見を聞きたいということで、大学コンソーシアム京都に依頼したところ、長年、高大連携の仕事に携わってきた森下氏を紹介され、報告を依頼した次第である。

報告者の順番と表題は以下のとおりである(報告概要に関しては各報告者の原稿を参照)。

①椋本洋(大学コンソーシアム京都高大連携推進室 / 立命館大学理工学部講師)

「入学前教育の取り組みとその先進事例について—日本リメディアル教育学会2011年度全国アンケート調査より」

1 「大学における学習支援への挑戦 リメディアル教育の現状と課題」日本リメディアル教育学会監修、ナカニシヤ出版、pp.75-105

2 <http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/campus/jitsuryoku/20110203-OYT8T00250.htm>

②山本由紀(松本大学キャリアセンター主事)

「松本大学における入学前教育の内容とその実施状況」

③森下昌彦(京都府立城陽高等学校進路指導部長)

「高校教員から見た大学入学前教育について」

椋本氏の報告の中で、事例紹介の一つとして、京都工芸繊維大学の取り組みが取り上げられた。そのときに、山本以和子氏(京都工芸繊維大学アドミッションセンター准教授)が、本分科会に参加されていたので、山本氏自らが説明報告される形式となった。

午後の部の最初では、森下氏の報告を補足する形で、京都府進路指導委員会の協力のもと調査された椋本氏が、入学前教育について高校側がどのように感じているか、の追加報告がなされた。

この報告の後、午前中の3名の報告に対しての質疑応答を始めた。

報告に対する質疑や応答

— 森下氏の発表に対して —

・SPI問題集をAO入試や指定校の合格者に課しています。何故、この問題集を課すのかをキチンと説明することが大事だと思います。

森下氏 — 大学を目指してきた生徒はSPIという言葉を知りません。おそらく、高校の教員も知りません。知っている人は極一部です。そんなに一般用語ではない、ということをご理解いただきたいと思います。

・ドリル型の入学前教育は就職を意識したものではなく、授業についてくるために必要だから、が大きな理由だと思います。なお、本学に来る学生の中には、 $1/3+1/4$ が出来ない者も多くいます。
森下氏 — これは笑い事ではなくて、高校教員として、私も同じような気持ちを持っています。そんなことは小学校でやってほしいと、きっと中学校の先生も、....高校教員としてはこんなことは中学校でやってほしい、中学校の先生と

してはこんなことは小学校でやってほしい、小学校の先生はこんなことは家でやってほしい、と順送りで、高校に入ってくる生徒で分数計算が出来ない生徒が全くいないかと言えば、実は沢山います。じゃ、高校で分数計算をわざわざするのはなくて、定積分という別の顔で登場させます。違うアプローチも取れるのだと思います。同じことをやっているのですが、定積分という形で $1/3+1/4$ をやらせませす。アプローチの仕方がいろいろあるのではないかな、と思います。必要な知識が求められるならば、違う方法もあるのではないかな、と思います。

・入学前教育は高校教育の邪魔になっていませんか？

森下氏 — 邪魔になっているとは思いません。

・お礼受験として、推薦合格者に対してセンター試験の受験を義務付けている高校があります。

森下氏 — これはお礼ではなくて、学校によると思います。例えば、センター試験を沢山受けるような高校では、推薦合格者も一緒に受けさせざるを得ないかな、と思っています。私が前に勤務していた学校は、85%の子がセンター試験を受けていました。その中には、指定校やAOで受かった子もいました。60%の時代は遊びでしたが、70%を超えたあたりから合格した子らも最後まで一緒に勉強していました。どこかで臨界点があり、生徒の意識もポツと変わったと思っています。合格した子たちもセンター試験を受けることは高校にとっても悪いことだと思っています。本人にとっても良いことだと思っています。

・本学では、アルファベットをまともに書くことも混乱してくる学生がいます。避けて通れない課題と基礎学力に対する課題とのバランスはどのぐらいがベストだと思いますか？

森下氏 — ちょっと難しくわからないのですが、大学ではきっと小中高のことがすべてできていないとダメだと思うのは、しんどいかなと思

います。興味・関心ということで大学に来ているのだから、良いところを伸ばしてやってください、というのがお願いです。

・平日に授業体験を実施した際に、高校の先生から高校の授業があるのにどうしてこの日程で開催するのか？と問い合わせが来ました。

森下氏 - 先程のアンケートでもありましたが、これは高校側としては困ってしまいます。大学に受かって、例えばガイダンスがあるから12月の授業日に来なさいと言われると、試験と重なったりすることもあり、高校側としては困った事態になります。これは私見なのですが、特に、医療系の大学にこのパターンが多いかと思っています。先程、スライドにも書かれていたように、2月になると高校は実質、休業日に入ってしまいます。受験のために休業日なのですが、その時期に是非お願いしたいと思います。

・AO入試で合格が決まった生徒に対して、その生徒の高校生活残り半年の学びを充実させるために、高校側としてどのような取り組みを行っていただけますか？

森下氏 - 非常に痛い質問です。実質、何もできていません。次から次へと逐次処理のようにきます。日程的に言うと、次は推薦入試の生徒、次はセンター、次は国公立の2次というようになってしまうので、順番的にやっていってしまいます。ただ、学校によっては、呼び出して、今後の生活についての指導などガイダンス程度のことはやっているかもしれません。

— 山本氏の発表に対して —

・集合セミナーに在校生がかなり入っているということでしたが、その学生をどのように募集するのか？指名なのか？応募してくるのか？

山本氏 - 私はキャリアセンターに所属していますので、キャリア関係の授業の中で、声をかけています。この取り組みが始まった当初は、教職の課程を履修している学生に入ってもらっていたようですが、そうすると学生に偏りがでてしまいますので、現在は全体に向けて声をかけています。「みんな、新入生のときにこういうことしたよね、今年もあるんだけど、やりたい人、お願いします」と声をかけると、その当時楽しかったようで、やりますという学生が非常に多くて、ありがたい状況です。

・その場合、学生に対して事前研修を実施していますか？

山本氏 - 実施しています。事前研修では、まず在校生に、「どうして松本大学に入学を決めたの？」ということを皆の前で話してもらうようにしています。そうすると、決して前向きな理由ばかりではなく、「近くだったから」とか「高校の先生に薦められたから」とか話す学生も多くいます。しかし、「今、楽しんでいる？」と聞くと「楽しい」と言ってくれるので、新入生も前向きな気持ちだけを持って入学してくるわけではないので、そうでなくても楽しめるという気持ちを実感を込めて伝えて欲しい、という形で研修をしています。その後、集合セミナーの流れをリハーサルの形で確認しています。すると、新入生として参加するのは楽だったけれど、それを新入生に伝えるのは難しいということがわかるようで、リハーサルではボロボロの状態ですが、本番当日までには改善に向けて学生が成長してくてくれますので、非常に助かっています。

・出席率はどのくらいですか？

山本氏 - 毎回、各学科で1、2名の欠席があるのみです。1月に欠席した学生については、電話をかけて、3月の一般入試の学生と同じスケジュールで参加するようにアナウンスしています。キャリアカウンセリング等もすべて第2クールの方に移していますので、ほとんどの学生が参加をしています。

・キャリアセンターが入学前教育を担当されるようになった経緯は？

山本氏 - 私が着任したときからキャリアセンターが担当していました。キャリアセンターは就職活動の支援もしていますので、その立場から言いますと、就職の面接のときに「学生時代にどのようなことに力を入れましたか？」という質問を必ずされます。3年生になったときに「私、何もやっていないんです」と涙ながらに来る学生も多いため、入学する前の段階で、学生生活を充実させて欲しいというメッセージを伝えたい、ということでキャリアセンターが担当することになったのではないかと、思っています。

・学生に時給等は支払われるのか？

山本氏 - 集合セミナーについては、本当に少額ですが、支払いをしています。1月末に実施しているのですが、翌週から試験が始まるにもかかわらず、半日拘束してしまいますので、お礼ということも込めて、僅かですが支払いをしています。プレオリエンテーションについては、新生入生にキチンと説明できる学生を指名して依頼していますので、「指名されたことを誇らしく思おうね」ということで、支払いはしていません。

・学生への指導は誰が担当していますか？

山本氏 - 集合セミナーについては、キャリアセンターの職員ですし、プレオリエンテーションについては、教務課の職員が指導を担当しています。基本的に、現状では、職員が指導しています。

・プレオリエンテーションに関してですが、入学前に面倒見の良いオリエンテーションをされているという印象を持ちました。入学後のオリエンテーション内容とかなり重複していますか？

山本氏 - 別の内容で実施しています。一度にすべてを伝えようとしてもそれが耳に残るかということもありますので、プレオリエンテーションではカリキュラムの理解に集中させ、どの科目を履修するべきか、ということを重点的に伝えてい

ます。入学後のオリエンテーションでは、細かいルールの説明をしています。GPAの計算方法や、試験を受けるためには欠席が何回まで大丈夫なのかなど、それに加えて、プレオリエンテーションの復習も多少入れています。

・課題の実施についてですが、達成状況の確認は、誰がどのような形でしていますか？

山本氏 - 本学では、基礎教育センターという部署が担当しています。そこで、採点をして、入学後に基礎ゼミナール等で返却をする形をとっています。業者のDVDについては、業者の方から報告が来るという状況です。

・遠方の出身は何%ぐらいですか？

山本氏 - 学部・学科で差はありますが、約7割が長野県出身者で、残りの3割が県外です。

・1月より後の受験者で、合格者は何%ぐらいですか？

山本氏 - 4割ぐらいです。6割が推薦で入ってきています。これも学部・学科によって多少差があります。

・入学前教育導入前後で、就職内定率や就職内定先に違いがありますか？

山本氏 - 入学前教育と効果が絡んでいるかどうかは見えていませんが、就職支援もかなり手厚く行っていますので、導入前後で大差は出ていないと思います。

— 椋本氏の発表に対して —

・入学前教育を担当する教職員の業務配分等について、どのようにされていますか？

椋本氏 - 大学によって様々だと思いますが、立命館大学の場合を紹介したいと思います。教育開発推進機構というのを持っていて、その中に接続教育支援センターというのがあります。ここが入学前教育を担当しています。そこではセンター長（英語教育専門）がいて、その下

に国・数・心理の教員3名がいます。職員の方は、課長補佐と2名の専従がいます。それからガイダンスみたいなき、立命館の場合、立命館プレ・エントランスデーと呼んでいます。その日には共学の職員を動員といった形となります。それから、学部の副学部長、高大連携担当教員、学部の職員が動員といった形で開かれています。プレ・エントランスデーの運営会議では、機構の教職員だけでなく、学部の職員も一緒になって企画を立てます。

・持ちコマとの兼ね合いとどのようになっていますか？ 研究との兼ね合いはどのようになっていますか？

椋本氏 - センター長の場合は2コマ減となりますが、他の人はそのままです。研究との兼ね合いは、所属している方々は、〇〇教育学会とか大学教育学会とか、あるいは日本リメディアル教育学会等に所属していますので、教育実践がそのまま研究になります。研究と矛盾して何かが起こるといことはありません。これは学部との大きな違いだと思います。接続教育センターとか、教育開発推進機構等を持っておられると、その点は矛盾なく仕事ができると思います。ここに行くには紆余曲折がありました。最初は入学センターが入学前教育を所管していました。つまり、入学させた生徒たちに対するサービスという形で、入学センターにあったわけです。それが教育開発推進機構に移った理由は、初年次教育と入学前教育を連動させて設計していくという位置づけになりました。つまり、「大学の教育をどのようにしていくか」ということの中に、入学前教育が絡んでくるわけです。その意味で非常に見通しがよくなってユニークなことがいろいろとできるようになったと思います。

次に、4人～6人のグループに別れて、各大学で行われている入学前教育の特徴や問題点、また今日の報告等を聞いて、こうすればもっと良くなる等について、話し合ってもらった。そこで出た内容等を以下に記す。

グループ・ディスカッション

第①グループ

- ・入学者の不安を取り除くために、入学前教育は必要である。
- ・かつては、業者のものを使っていたが、現在は学科独自の小論文形式に変えた。
- ・大学の1年次の授業と一緒に参加してもらう。これによって、入学前に友達ができたり、大学でのノートの仕方を学ぶ。
- ・レポートや小論文を課しているところが多かった。
- ・入学前に課した課題を入学後の授業（基礎実習）で利用している。
- ・化学で中学レベルの課題を課さなければ入学後についていけないということが実際にある。ただし、授業に必要な計算式を実際に示した上で、このレベルの課題が必要なんだということを生徒に先に示しておくことで有効性がある。
- ・各学科ごとに入学前に取り組んでいる、プラス全学的にも取り組んでいる。
- ・新聞記事の要約やそれについての意見を述べさせる課題を出している。
- ・秘書検定に使用されるようなマナーの内容を行っている。
- ・入学前に学生を集める。遠方からの学生に配慮して3月末日に実施している。
- ・課題として、全学的な取り組み、入学後の学力への効果、学習習慣の維持をどのように測っていくか、がある。

第②グループ

- ・学生からの要望として、自分の行きたい学科に関連する内容を出題してほしい。

第③グループ

- ・学習習慣をつけるのが、入学前教育の最大の目的である。
- ・効果が測定できていない。
- ・入学者の学力レベルは千差万別であり、できる子にも対応したことをやってはいない。

第④グループ

- ・問題を解かせ、その解答を送ってもらって添削して返すという通信教育を最初やっていたが辞めた。理由は、素晴らしくできている子がいたが、入学したら全然できなくて、課題を高校の先生に解いてもらっていたことがわかったからである。これにより、直接教育を行う方式、スクーリングを3回行うことに変えた。
- ・課題図書を与えて、ディスカッションをしている。
- ・ページごとに要約、節ごとに要約と、段々大きく要約していくというプロセスを踏まえた要約の仕方を指導している。
- ・教員がほぼ全員、入学前教育に関わっており、入学前の学生の状況を共通認識できている。
- ・合格通知と一緒にテストを送って、そのテストの成績によってやるべき課題を変えている。
- ・メールを通じて、課題が終わったら報告してもらって、ネット上で小テストをし、合格したら次の課題を、不合格だったらアドバイスをして再度問題をさせている。
- ・一般入試の学生と推薦入試の学生とで、1年次に同じ現代文の試験をすると、推薦入試の学生の方がピーク値が高く出たので、入学前教育の成果は出ていると思っている。

第⑤グループ

- ・12月の第3週目の日曜日に一回目のガイダンスを実施する。そのときに、在学生の話を聞いてもらい、大学への関心を高めてもらう。また、課題をパソコンで行うのか紙で行うのかを高校生それぞれに選んでもらう。学習期間が長いので、学習計画表を作って渡している³。進捗状況に応じて、Eラーニングを作成した業者側と大学側

の両方で叱咤激励の連絡をしている。第二回目のガイダンスを3月中旬に実施し、そのときまでにすべての課題を終えさせる。

- ・課題として、全員がキチンとやってくれるわけではない。入学前教育について、ワーキング・グループがあり、現在検討中である。

第⑥グループ

- ・予備校と提携して、問題集を送ってさせているが、1回は大学に予備校講師を呼んで解説してもらっている。それとは別に試験も行っている。
- ・タイピングの課題を出している。
- ・予備校と提携してDVDの受講がある。任意参加だが、8割ほど参加している。
- ・入学前に”個別の”キャリアカウンセリングをすることによって、生徒のモチベーションがあがった。

第⑦グループ

- ・学部によって対応が異なるので、大学全体として統一できないか、体制の問題がある。
- ・共通して対応できる場所の充実が必要である。
- ・学習の相談にあたって、大学の教員だけではなく、学生との対話もあった方が良い。
- ・学生に手をかけると、それが返ってくるので、入学前から手をかけるのは良いことである。

最後に、各報告者にまとめをもらった。

山本氏 - 一つ事例を紹介したいと思います。今年ですが、ある保護者から、「息子は推薦入試で合格を決めているのですが、周りの友達には各大学から課題が送られているのに、お宅の大学からは送られてこないじゃありませんか、ということですか」という内容の電話がありました。集合セミナーのときにお配りしますと伝えたのですが、課題をどういう目的でやらなければいけないのか、というのがわからない状態であっても、何となくするのが当たり前になってきているのかな、とそのときに感じました。モチベーション

3 広島経済大学の御厚意により、P363～P366に学習計画表を添付する。

の維持が入学前教育の一番のねらいであるはずですので、「何故、これをするのか」という目的をキチンと新生に伝えていくのが本当に大事なんだということを今日のいろいろな発表を聞いて感じました。学生にとって、どういうメリットがあるのかという、その意味付けを怠らないように今後も有効な入学前教育を考えていければ、と思いました。

森下氏 - 今日、聞かせてもらって、大学って様々な取り組みをしているんだ、自分が学生だった頃とは全然違うんだということがハッキリしたということが、今日の一番の収穫だと思っています。学生が言っていたように、自分の行きたい学部・学科の勉強がしたいというのが、学生の一番の思いなんじゃないかな、ということで入学前教育は大学ごとに個別の会を作っていかに得ないのかなと勝手に思ったりしました。以前聞いたことがあるのは、大学で行われていることは5年後に必ず高校で行われるということでした。大学の先生が高校に来て大学案内をしていたのがきっかけで、その5年後には我々が中学校に行って高校案内をやっていました。きっと入学前教育がそのうち高校でも行われるのかなということで、その際、一体何を大事にしないといけないかと考えたところ、やっぱり、ワクワク感かなあとと思っています。この分野、入学前教育に関しては、是非、高校と連携していただきたいと思っています。最後に最も印象に残ったのは、「学生に手をかければ、必ず返ってくる」という言葉でした。明日からも頑張りたいと思います。

椋本氏 - 最後に感想を3点述べたいと思います。まず1点目は、今回のテーマに入学前教育の効果が問われているわけですが、効果は中々測定しにくいと思います。私たちもどのぐらい力がついたかということテストで見られるわけですが、基礎学力については短期間の学習では中々、力がつきません。その意味では、学力問題は根が深いと感じます。ただ、効果の尺度として満足度

で測っていると、三つの受講方法、Eラーニング、添削、スクーリング、で較べてみますと、私の調べた範囲では、直接対面授業を受けるスクーリングが一番満足度が高いです。その次が添削、一番悪いのはEラーニングです。これは何故かと考えてみますと、やはり、そこに人が介在しているかどうかが大きな要素かなと思います。Eラーニングを導入する場合、それに関わるメンター(助言者)をどのように養成していくかということが重要だ思います。先程の例では、千歳科学技術大学の例を紹介いたしました。他には、青山学院大学、関東学院大学、などが優れたメンターの養成をしています。特に、青山はシニアの先生がついてメンターの指導をしていますので、機会があれば訪問してどのような指導をしているのか教えてもらったらと思います。

2点目は、これはウチの大学の取り組みなんです。合格した時点で自己の振り返りを行うことが大事だと思います。5つの要素でなる自己分析を行います。1つ目は基礎学力の点検。本学では英数国の3科目の基礎学力を測ることをしています。2点目は、自尊感情。自分に自信があるから自分を尊ぶ気持ちを持っていたら、前向きにいろいろなことに取り組んでいきます。そういう意味で、自尊感情は大事だと思います。3つ目は、学習への積極的参加です。高校生の時には、受け身でもよいのですが、大学では積極的に授業に参加することが求められます。その転換が重要だと思います。4つ目は、学習習慣が続けられているかどうか。受験まではモチベーションがあって頑張ってきたわけですが、合格した途端に下がってくることをないように、学習習慣の継続を問います。最後はキャリア意識を持っているか。キャリアというのは、単に就職という意味ではなく、「何がしたいのか」、「自分に何ができるのか」ということを自己確認することです。この5つの点で自己の振り返りをしてみる、ということがウチのホームページを見ると出ています。

3点目は、受験したときは、学びたいことや楽

しい学生生活、さらにはあこがれの大学生像などを持っていたはずで、それを再確認するような「入学ガイダンス」を実施することが大切だと思います。先程の皆さんの発表内容を聞いていなくても、モデルになる人物像が示されているのが、効果的だなと思いました。

この3点が入学前教育をやっていく鍵になると思います。

最後に

今回の報告者の発表やグループ・ディスカッションを聞いて、入学前教育は、現在、どの大学でも取り組んでいる教育であり、入学前の高校生と直接対面するスクーリングも多くの大学で実施されていることがわかった。入学前教育を行う目的としては、ほとんどの大学で、学習習慣やモチベーションの維持をあげていた。入学前教育の効果に至っては、検証できていない大学が多く、また検証をしている大学でも、その効果の着眼点をどこにおくかによって、また、教科によって、効果があったりなかったりと様々であったように思われる。グループ・ディスカッションでは活発に討議され、分科会は盛況のうちに終わった。

入学前学習プログラム 学習計画表

【学習期間と目標進捗率】

週	期 間	目標進捗率	備考
第1週	12/16(日) ~ 12/22(土)	5%	・英語、国語、(数学)の事前テストを受験する。(期間:12/16~12/31) ・学習指導メールを配信
第2週	12/23(日) ~ 12/29(土)	10%	
第3週	12/30(日) ~ 1/5(土)	20%	
第4週	1/6(日) ~ 1/12(土)	30%	
第5週	1/13(日) ~ 1/19(土)	40%	・学習の進み具合を高校に報告
第6週	1/20(日) ~ 1/26(土)	50%	
第7週	1/27(日) ~ 2/2(土)	60%	・進み具合に応じて、電話連絡あり
第8週	2/3(日) ~ 2/9(土)	70%	
第9週	2/10(日) ~ 2/16(土)	80%	・学習指導メールを配信
第10週	2/17(日) ~ 2/23(土)	85%	
第11週	2/24(日) ~ 3/2(土)	90%	・進み具合に応じて、電話連絡あり
第12週	3/3(日) ~ 3/9(土)	95%	
第13週	3/10(日) ~ 3/12(火)	100%	・学習指導メールを配信

【事前・事後テスト】

テスト	実 施 期 間
事前	12/16(日) ~ 12/31(月)の期間で必ず実施してください。
事後	3/13(水)の第2回入学前スクーリングで実施します。 ※数学を選択した方は、各自で事後テストを2月27日(水)~3月12日(火)の期間で、必ず受けてください。

【注意事項】

- ・e-Learning 課題はできるだけ進捗予定に沿って計画的に進めてください。
 - ・3月13日(水)の第2回入学前スクーリングの時に、英語と国語は『事後テスト』を実施しますので、必ず3月12日(火)までに、全科目のe-Learning 課題を修了してください。
 - ・このe-Learning 課題は入学後も継続して実施可能です。もし、修了できなかった場合でも積極的に活用しましょう。(ただし2013年7月末まで)
 - ・英語・国語(必須)、数学(選択)以外にも、英単語や漢字学習のコンテンツもあるので、時間があればチャレンジしてみましょう。
- ・第2回入学前スクーリングで学習計画表を提出してください! ⇒ **平成25年3月13日(水)**

受験番号	
氏名	
保護者確認欄	

国語（必須）

週	期間	国語（単元ごとに修了した日付を記入）	修了日	取り組んだ感想
		単元（理想的な学習ペース）		予定通り学習できているか など
第1週 5%	12/16(日) ～ 12/22(土)	1-1. わかりやすい文書とは		
		1-2. 主語と述語について		
第2週 10%	12/23(日) ～ 12/29(土)	1-3. 修飾語と被修飾語について		
		1-4. 文体について（常体と敬体）		
第3週 20%	12/30(日) ～ 1/5(土)	2-1. 仮名遣い、送り仮名の基本		
		2-2. 漢字、記号の使い方		
		2-3. 句読点の使い方		
第4週 30%	1/6(日) ～ 1/12(土)	3-1. 接続詞の使い方		
		3-2. 言葉のつながりに注意する		
第5週 40%	1/13(日) ～ 1/19(土)	4-1. 書き始める前の準備		
		4-2. 文章構成のコツ①		
第6週 50%	1/20(日) ～ 1/26(土)	4-3. 文章構成のコツ②		
		4-4. さあ、書いてみよう！		
第7週 60%	1/27(日) ～ 2/2(土)	5-1. 「正確に書く」がレポートの基本		
		5-2. 「確かなこと」を「具体的」に書く		
第8週 70%	2/3(日) ～ 2/9(土)	5-3. 単位、時間などモノサシは明確に		
		6-1. 事前準備が仕上がりのカギ		
第9週 80%	2/10(日) ～ 2/16(土)	6-2. スタイルにこだわろう①		
		6-3. スタイルにこだわろう②		
第10週 85%	2/17(日) ～ 2/23(土)	7-1. 信頼性を生む「論証」の方法		
		7-2. 引用のルール		
第11週 90%	2/24(日) ～ 3/2(土)	8-1. データをグラフにする		
		8-2. データを読み解いて文章にする		
		8-3. データはウソをつく!?		
第12週 95%	3/3(日) ～ 3/9(土)	9-1. 文章の要約と要約文の書き方		
		9-2. 評論文の書き方		
第13週 100%	3/10(日) ～ 3/12(火)	9-3. 報告書の書き方 ★小論文（800文字）		

英語（必須）

週	期 間	英語（単元ごとに修了した日付を記入）	修了日	取り組んだ感想
		単元（理想的な学習ベース）		予定通り学習できているか など
第1週 5%	12/16(日) ~ 12/22(土)	【初級】 1. be動詞・現在		
		【初級】 2. 代名詞の変化		
		【初級】 3. 一般動詞・現在		
		【初級】 4. 名前やようすの表現		
		【初級】 5. 疑問文 what・who		
		【初級】 6. 疑問文 whereなど		
第2週 10%	12/23(日) ~ 12/29(土)	【初級】 7. 疑問文 howなど		
		【初級】 8. 命令文・感嘆文		
		【初級】 9. be動詞・過去		
		【初級】 10. 一般動詞・過去		
		【初級】 11. 現在進行形		
		【初級】 12. 過去進行形		
第3週 20%	12/30(日) ~ 1/5(土)	【初級】 13. 現在と過去の表現		
		【初級】 14. 助動詞		
		【初級】 15. itを主語にするもの		
		【初級】 16. There is		
第4週 30%	1/6(日) ~ 1/12(土)	【初級】 17. 前置詞		
		【初級】 18. 現在、過去、未来の表現		
		【初級】 19. 接続詞 when・thatなど		
		【初級】 20. 接続詞 till・afterなど		
第5週 40%	1/13(日) ~ 1/19(土)	【初級】 21. 不定詞（基本）		
		【初級】 22. 不定詞（応用）		
		【初級】 23. 動名詞		
		【初級】 24. 動名詞と不定詞		
第6週 50%	1/20(日) ~ 1/26(土)	【初級】 25. 英文のタイプ		
		【初級】 26. 分詞		
		【初級】 27. 英文の流れ（句）		
		【初級】 28. 比較		
第7週 60%	1/27(日) ~ 2/2(土)	【初級】 29. 受動態		
		【初級】 30. 量やようすの表現		
		【初級】 31. 現在完了		
		【初級】 32. 時間の感覚		
第8週 70%	2/3(日) ~ 2/9(土)	【初級】 33. 間接疑問文・付加疑問文		
		【初級】 34. 関係代名詞		
		【初級】 35. 英文の流れ（句・節）		
		【初級】 36. 重要な構文		
第9週 80%	2/10(日) ~ 2/16(土)	【初級】 37. まとめの表		
		【中級】 1. 時制2（完了）		
		【中級】 2. 時制3（進行形・その他）		
第10週 85%	2/17(日) ~ 2/23(土)	【中級】 3. 不定詞2（応用）		
		【中級】 4. 動名詞		
		【中級】 5. 分詞		
		【中級】 6. 英文の流れ1		
第11週 90%	2/24(日) ~ 3/2(土)	【中級】 7. 分詞構文		
		【中級】 8. 文型2（応用）		
		【中級】 9. 比較2（応用）		
		【中級】 10. 関係代名詞		
第12週 95%	3/3(日) ~ 3/9(土)	【中級】 11. 関係副詞		
		【中級】 12. 複合関係代名詞		
		【中級】 13. 構文		
		【中級】 14. 助動詞1（基礎）		
第13週 100%	3/10(日) ~ 3/12(火)	【中級】 15. 助動詞2（応用）		
		【中級】 16. 仮定法1（基礎）		
		【中級】 17. 仮定法2		

数学（選択）

週	期 間	数学（単元ごとに修了した日付を記入）	修了日	取り組んだ感想
		単元（理想的な学習ペース）		予定通り学習できているか など
第1週 5%	12/16(日) ～ 12/22(土)	1. 小数		
		2. 小数の計算（1）		
第2週 10%	12/23(日) ～ 12/29(土)	3. 小数の計算（2）		
		4. 分数（1）		
第3週 20%	12/30(日) ～ 1/5(土)	5. 分数（2）		
		6. 分数（3）		
第4週 30%	1/6(日) ～ 1/12(土)	7. 正負の数		
		8. 文字と式		
		9. 方程式		
第5週 40%	1/13(日) ～ 1/19(土)	10. 比例と反比例		
		11. 式の計算		
第6週 50%	1/20(日) ～ 1/26(土)	12. 連立方程式		
		13. 1次関数		
第7週 60%	1/27(日) ～ 2/2(土)	14. 確率		
		15. 平方根		
第8週 70%	2/3(日) ～ 2/9(土)	16. 多項式		
		17. 2次方程式		
第9週 80%	2/10(日) ～ 2/16(土)	18. 関数 $y=ax^2$		
		19. 数と式		
第10週 85%	2/17(日) ～ 2/23(土)	20. 方程式と不等式		
		21. 2次関数		
第11週 90%	2/24(日) ～ 3/2(土)	22. 図形と計量		
第12週 95%	3/3(日) ～ 3/9(土)	23. 集合と論理		
第13週 100%	3/10(日) ～ 3/12(火)	24. 順列、組合せ		

※数学を選択した方は、事後テストを2月27日(水)～3月12日(火)の期間で、必ず受けてください。

入学前教育の取り組みとその先進事例について

—日本リメディアル教育学会 2011 年度全国アンケート調査より

大学コンソーシアム京都 高大連携推進室 / 立命館大学 理工学部 講師

梶本 洋

第18回FDフォーラム・第8分科会

入学前教育の取り組みと その先進事例について

—日本リメディアル教育学会
2011年度全国アンケート調査より

前立命館大学接続教育センター長
現立命館大学理工学部講師
梶本 洋

2013年2月24日

本日の概要

1. 入学前教育とは
2. 入学前教育の現状
3. 考察

1. 入学前教育とは

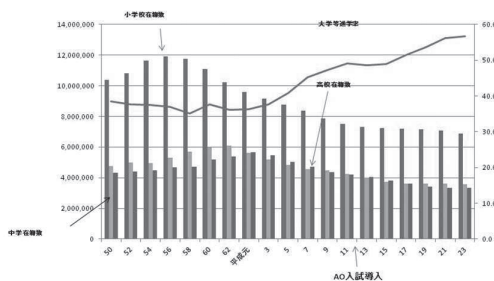
「大学が入学前に行っておくべき学習準備等についてのアドバイスを行ったり、具体的な課題を課す」「高等学校での学業と関連付けつつ入学準備学習を行わず等により、学習に対する動機を継続し、入学までの期間を有意義なものとするよう支援していくこと」であるととらえる。

—大学審答申『大学入試の改善について』2000年11月

入学前教育が必要になった背景

- ① 高等教育の量的規模の拡大
- ② 高校教育と高等教育のギャップ
- ③ 入試方式の改善と入学前準備のための教育の必要性

① 高等教育の量的規模の拡大



2000年ごろから、高校卒業生数は減少するにもかかわらず、大学の進学率は上がっている

② 高校教育と高等教育のギャップ

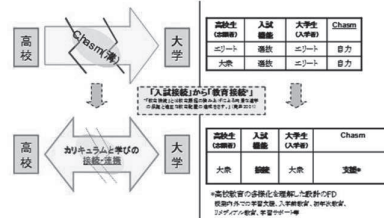


図1 高大接続教育の構造と高校と大学間の溝(chasm)

入学試験によって受験学力の水準を担保することで、ある程度埋められていた。しかし、高等学校の全入化により、生徒の学力が多様化し、高校生に必要な共通教育ともいべき必修科目の単位数は、最大だった昭和38年から10年間の68/85単位から、現行31/74単位にまで減少し、高等教育の基礎教育を理解する学力が必ずしも保障できなくなっている。

③ 入試方式の改善と入学前準備のための教育の必要性

- AO入試、推薦入試など、選抜方法の多様化、評価尺度の多元化などにより入学者選抜の改善を意図した改革が、必ずしも有効に機能していない

高等学校と大学との接続

- 高等学校における授業の改善も含めた高等学校と大学との接続の観点からも、高等学校における質保証に係る検討と併せて、大学進学者の意欲や能力、適性等の多面的、総合的な評価に基づく大学入試の在り方について、別途高等学校及び大学関係者による検討が必要。

—中教審高大接続特別部会
第1回(2012. 8)配布資料より

2. 入学前教育の現状

- 2011年度日本リメディアル教育学会のアンケート結果の概要

- ① 実施規模
- ② 実施目的
- ③ 実施場所
- ④ 教材
- ⑤ 実施科目
- ⑥ 学習効果の確認
- ⑦ 実施していない理由

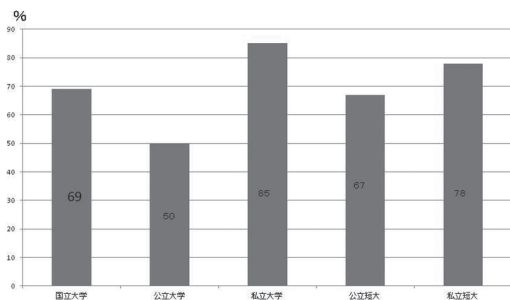
概要

- アンケート回答率

大学種別	依頼数	回答数	回収率
国立大学	86	55	64%
公立大学	77	54	70%
私立大学	590	296	50%
計	753	405	54%

種別	依頼数	解答数	回収率
公立短期大学	23	6	26%
私立短期大学	372	133	36%
計	395	139	35%
合計	1148	544	47%

入学前教育実施状況

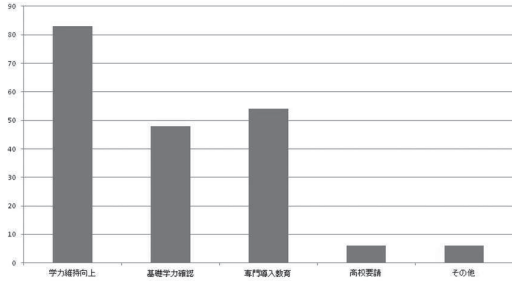


① 実施規模

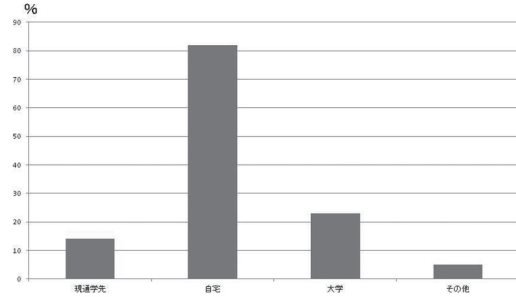
- 回答全体で見ると、約70%の大学で大学全体の取り組みとして実施している。
- 大学全体の取り組みを行っている比率

大学全体としての取り組み	国公立	私立
	25%	75%

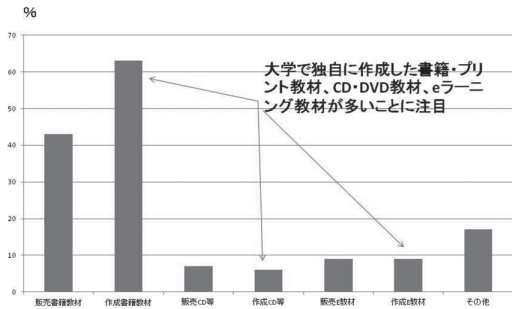
② 実施目的



③ 実施場所



④ 教材

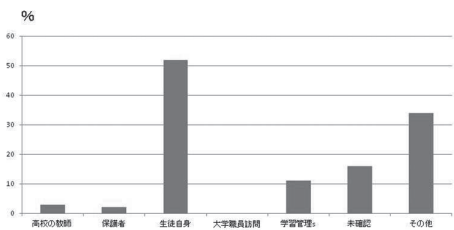


⑤ 実施科目

	全回答 %	国立大学	公立大学	私立大学	短期大学
英語	49	65	70	57	14
日本語	49	19	27	54	49
数学	38	57	41	41	22
物理	24	49	24	27	3
化学	30	35	22	49	16
生物	27	24	14	35	14
社会	8	3	19	11	8
その他	46	41	38	41	59

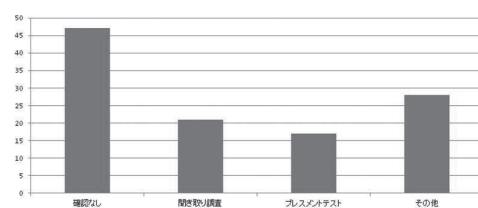
その他: レポート課題, 小論文式課題, 一般教養問題集, 実技課題など

⑥-1 学習状況の確認



その他: 「入学時に提出」「通信添削」「大学へ登校, 大学に持参」「業者が確認, 事後報告」「LMSによる指導」「激励の電話」など

⑥-2 学習成果確認



その他: 「課題, レポートなどを提出, 学科によっては教員面接」「課題の成績, プレゼン内容等で確認」「学習後の到達度テストにより把握」「アンケートによる学力調査」「心理テストを独自尺度により, 実施し学習前と学習後の心理状態を比較」など

⑦ 実施していない理由

- 実施する必要がない...49%
- 担当する教員がいない, 足りない...29%
- 適切な教材がない...11%
- 「教職員の意思統一が不足」「時間的余裕がない」「検討中」「協議する組織がない」
...24%

3. 考察

- 考察の視点
 - ① 接続教育の観点
 - ② 学習の継続の課題
 - ③ 受講層の位置づけ:「学力不足」の生徒?
 - ④ 「高等学校の復習」だけでよいか
 - ⑤ 教職協働

① 接続教育の観点

- 高校教育との接続の観点

【事例1】京都工芸繊維大学

通信添削の教材は、英語を除いてすべて独自に開発している。その開発には高校と大学の教員が連携して取り組み、高校と大学の学びのギャップを分析した上で、その「橋わたし」となるような教材をつくっている。

成功事例として、別ファイルで取り組み全体を紹介

【事例2】九州工業大学

推薦入試合格後3回の合格者研修会と家庭学習(参考書, 印刷教材, eラーニング)を行う。3回の研修会のうち2回は、元高校のベテラン教員を講師に招いて2泊3日の宿泊研修会を実施する。2日目、60分の講義を数学・物理それぞれ5コマずつ実施する。数学、物理共に2名の元高校のベテラン教員が講義を担当する。

② 学習の継続の課題

- 通信添削、eラーニングの実施には、課題提出が回を追うごとに減少していく傾向にある。
- 入学前教育にかかわる企業の多くは学習動機の継続を図るシステムを持っている。
- 指導に当たるメンターが必要
- そのために養成する必要

【事例3】千歳科学技術大学

【取り組み状況の把握】

- 対象者の取り組み状況はLMS(Learning Management System)で管理され、すべての学習情報(学習日, 時間帯, 取り組み時間, 取り組み箇所, クリック数, 正解数等)がデータとして蓄積されている。
- 定期的に学習状況を確認し、取り組みが不十分な対象者にはメールで励ましを入れる。
- 対象者全員の保護者に取り組み結果を1ヶ月ごとに報告書として送付し、保護者からも対象者に入学前教育に取り組むようにアドバイスしてもらえる工夫をしている。

③ 受講層の位置づけ 「学力不足」の生徒？

- 実態としてAO入試、推薦入試など早期合格者群とセンター試験・個別二次試験の合格者の間に、入学時点において差がある。
- 早期合格者たちは、それぞれの大学への入学を熱望してきた層である。
- 「期待される役割」を意識する

【事例4】立命館大学

- 特別入試合格者へ「大学のあらゆる学びの場面における『リーダー』的役割の担い手」「正課・課外を通じて、リーダー的役割を発揮し、学びのコミュニティ形成の核となる人材」であることの期待を、大学全体として、さらに学部から、合格者全員を集めた場において発信している(立命館プレエントランスデイ)。このように、受講する学生たちの学びの意欲に直接働きかける取り組みが重要であろう。→入学前教育のHPをのぞいてみよう。

④ 「高等学校の復習」だけでよいか

【事例5】湘北短期大学

入学前の2月~3月に「コミュニケーションリテラシー」の科目を開講。4日程(各日程3コマ×4日間、各日程の受講者は約100名)で実施。職業をもった社会人に必要な能力として早期から育成すべき内容を盛り込んで15講を構成している。「コミュニケーション力」を「読・書・話・パソコン」により他人と力を合わせて仕事をする力、と定義し、この力を育成するために、グループワークにより問題の解決に取組み、その結果をプレゼンテーションする。

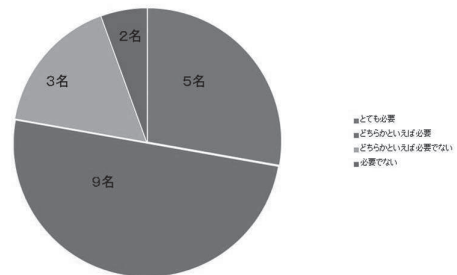
⑤ 教職協働

- 事例報告によれば、次のような部署が入学前教育を主管している。入学にかかわる全学横断組織である入学センター、アドミッションセンター、入試広報課など(鳥取大学、京都工芸繊維大学、北海道工業大学など)がある。次に、在学生の学習支援にかかわる学習支援センター、教理工教育研究センターなど(広島修道大学、金沢工業大学)がある。つさらに、教養教育を推進する組織である「リベラルアーツセンター」「基礎総合教育部」など(聖学院大学、湘北短期大学)及び全学の教育開発にかかわる「教育開発推進機構」(立命館大学)がある。主管が学部である例(九州工業大学、近畿大学)もある。いずれにしても、これらの業務及び実践は、教員のみあるいは職員のみで行われているのではなく、教職協働の取り組みであることが伺われる。

⑥ 入学前教育の効果の検証 一高校側の意見

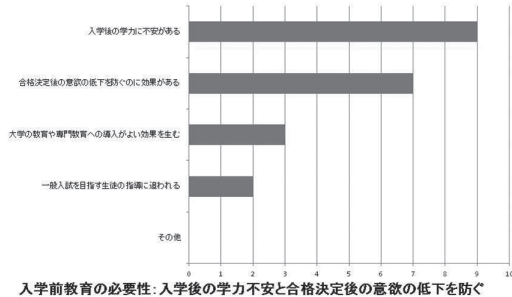
- 入学前教育の効果を高校側の教師に聞いてみた
- アンケートに答えていただいたかた進路指導研究会事務局会議のメンバー 18名
- 高校側の評価をある程度反映していると考えられる

問1. 早期合格者の入学前教育は必要と考えますか。

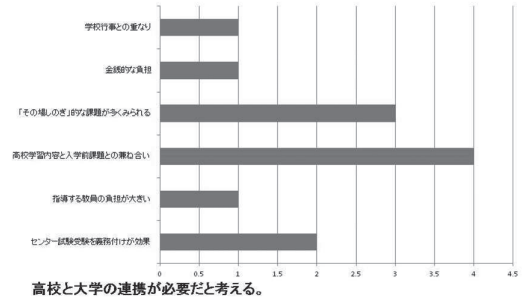


74%の高校教師が入学前教育が必要だと考えている。

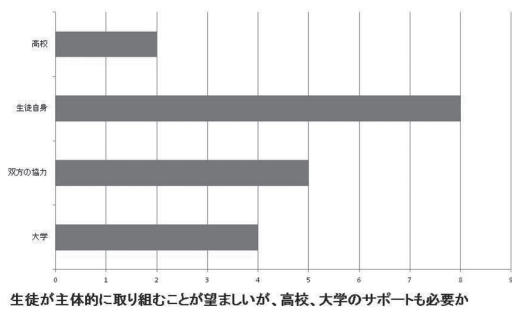
問2 なぜ入学前教育が必要だとお考えですか？(複数回答可)



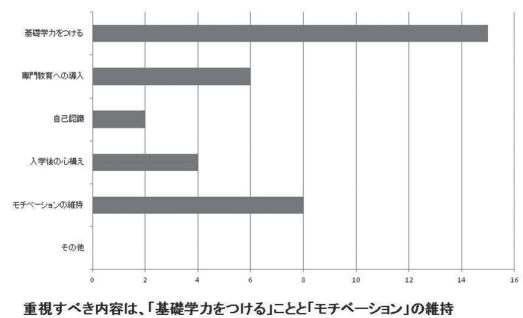
問3 なぜ入学前教育は必要ないとお考えですか。(複数回答可)



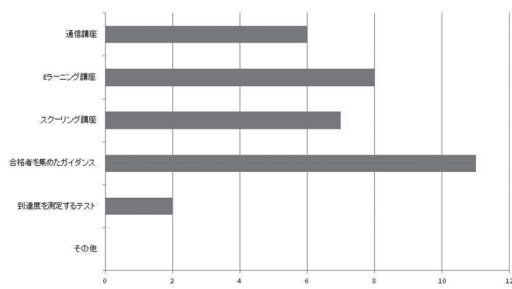
問4 入学までの意欲維持に責任を持つべきは以下のどれであると考えますか。



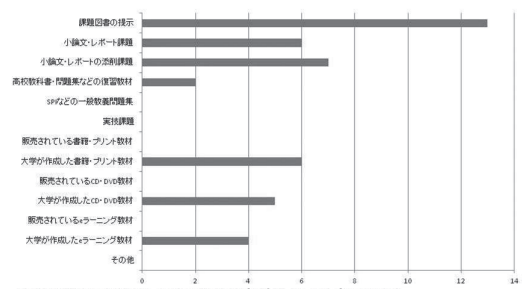
問5 入学前教育において重視すべきことはどのような点だと考えますか(複数回答可)



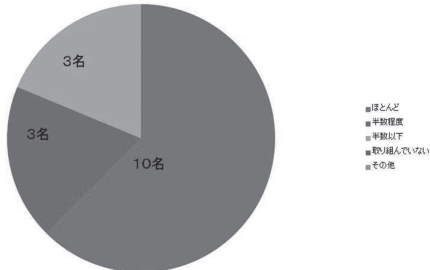
問6 入学前教育の望ましい形式はどのようなものであると考えますか(複数回答可)



問7 入学前教育の望ましい課題はどのようなものであると考えますか(複数回答可)

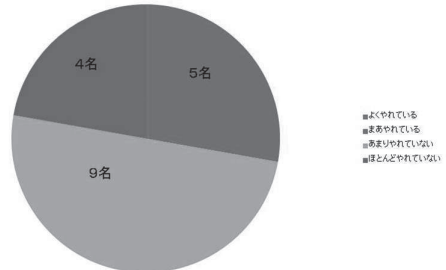


問8 合格者たちは、入学前教育にどの程度取り組んでいると思われますか



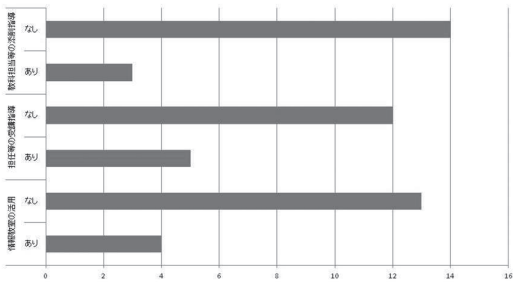
合格者たちは、ある程度入学前教育に取り組んでいると考えられる。

問9 問8の実態把握を高校側としての程度やれていると感じていますか

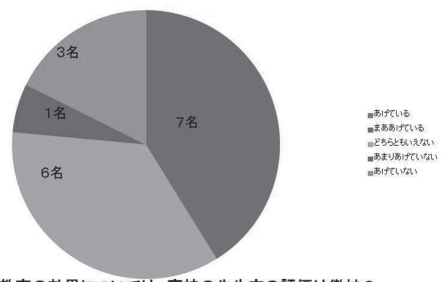


ただし、問8の判断は、きちんと生徒を把握してされているわけではない。

問10 高等学校として、入学前教育のサポート体制の可能性

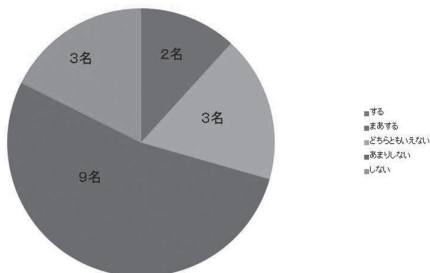


問11 入学前教育は効果を上げていると感じられますか



入学前教育の効果については、高校の先生方の評価は微妙?

問12 入学前教育は、大学選択に影響があると考えますか。



入学前教育について大学への要望事項実施について

- 高校の授業日に生徒を呼び出すこと
- 入学前講座は無料で行うべき
- 点検、添削など高校側の負担にならないように
- 学校の授業に支障のない時期(2月以降)に実施してほしい
- 連絡は、生徒と同様に学校にもしてほしい
- 早く合格が決まる指定校制度がそもそも問題一般入試の時期まで高校側が指導するのがスジ。
- 入学前教育のチェックを高校がするのは問題

入学前教育について大学への要望事項 内容について

- 学問分野に関連したものが望ましい
- 探究心を開発するようなもの
- 学校の施設を使用する必要がないように
- PCを持っていない生徒がいることも視野に

まとめ

- 高校側の評価は、先行調査(01/03ベネッセ, 08河合塾)と比較して、入学前教育について、ある程度理解が進んでいる。
- しかし、このアンケートにみられるように、まだ、高校と大学・短大の溝は深い。
- 大学改革実行プランにみられるように、大学教育の質的転換を迫られているとともに、入試の在り方や高大接続の課題を突き付けられている。

今後の展望

—大学改革実行プランより

- 1つ目の柱が、「激しく変化する社会における大学の機能の再構築」である。
- その1番目に「大学教育の質的転換、大学入試改革」が挙げられている。
- 入学前教育の様々な課題は、入試の在り方と深く関わっている、その意味において、中教審高大接続特別部会の動向に注目しておきたい。
- 入学前教育はしないですむのが王道。そのため以下の「大学改革実行プラン」が、浸透していくかがカギとなる。

大学改革実行プランの具体策

—20013年度から実施

- 高校段階での学力状況を多面的・客観的に把握する様々な仕組みの検討
- 高校教育の質保証とともに、意欲・能力・適性等の多面的・総合的な評価に基づく入試の転換の促進(高校・大学の教育と連動した入試改革、クリティカルシンキングを重視した入試への転換、センター試験の改革)
- 高大連携教育の推進(カリキュラム開発、授業改善等を含む)

松本大学における入学前教育の内容とその実施状況

松本大学 キャリアセンター 主事

山本 由紀

2013.02.24 第18回FDフォーラム

松本大学における 入学前教育の内容とその実施状況

松本大学 キャリアセンター主事 山本 由紀

構成

- はじめに ～入学前教育のねらい～
- 松本大学・入学前教育の概要
- 入学前教育（入学決定前）の内容
- 入学前教育（入学決定後）の内容
 - 1回目「集合セミナー」
 - 2回目「キャリアカウンセリング」
 - 3回目「プレ・オリエンテーション」
- 入学前教育と退学率
 - 退学率の年次変化
 - 初年次生の退学率
 - 初年次生の退学理由の変化
- おわりに
 - 学生中心の教職協働
 - 入学前教育の効果～教職協働の1Rから分かったこと～

1. はじめに～入学前教育のねらい～

初年次教育の一環としての入学前教育
高校生活から大学生活への円滑な移行

期待される影響

- 「大学生活」に対する不安の解消
- 「大学での学び方」への理解
- 退学率の減少(特に初年次)

2. 松本大学・入学前教育の概要

松本大学における入学前教育

入学決定前

- キャンパス見学会、模擬授業、進路相談など、情報収集
- 高校への出前講座
- 高大連携

入学決定後

■入学前に3回、大学へ通う

- 1回目 1月 集合セミナー
～先輩からの大学生活案内、グループディスカッション～
- 2回目 2月 個別キャリアカウンセリング(全入学生 1人45分程度)
- 3回目 3月 学びへの誘い
～カリキュラム構成のガイダンスとDVD配布～

■自宅で
課題(基礎教育センター)
事前講習(業者によるDVD教材)

3. 入学前教育（入学決定前）の内容

キャンパス見学会
学部・学科の教育内容の理解
学生支援システムの理解
様々な催しで、理解を深める工夫

多彩なメニュー
分かりやすい市民・高校生向けの充実した内容
年間約70本実施(高校生向け)

教育研究発表
& 出前講座 2012

出前講義

高大連携
高大接続

穂高商業高校
諏訪実業高校
(松商学園高校)

簿記会計
キャリア教育
進捗別対応

松本大学
松商短期大学部

辰野高校
丸子修学館高校
飯田長姫高校
エクセラン高校
岡谷東高校

地域連携
学びの共有
教育実習先

松本大学
観光ホスピタリティ学科
スポーツ健康学科 等

7

MATSUMOTO UNIVERSITY

高大連携の事例

平成24年度学生と連携事業
大学授業チャレンジ学連携(2012年夏) 講義時間割

	1時間 9:40~10:40	2時間 10:40~11:30	3時間 13:00~14:00	4時間 14:10~15:10
7月30日(月)	キャリアデザイン(1単位) 111教室	職業分野(1単位) 111教室	キャリアデザイン(1単位) 111教室	キャリアデザイン(1単位) 111教室
7月31日(火)	キャリアデザイン(1単位) 111教室	職業分野(1単位) 111教室	キャリアデザイン(1単位) 111教室	キャリアデザイン(1単位) 111教室
8月1日(水)	職業分野(1単位) 111教室	キャリアデザイン(1単位) 111教室	キャリアデザイン(1単位) 111教室	キャリアデザイン(1単位) 111教室
7月30日(月)9時00~10時	開講校: 111教室			

松商大
高大連携科目の
シラバス
入学前に単位認定

8

MATSUMOTO UNIVERSITY

4. 入学前教育(入学決定後)の内容

(1) 1回目 「集合セミナー」 ~1月~

■「集合セミナー」のねらい

- ①入学前に、大学の雰囲気やキャンパスで過ごす時間に慣れる
- ②これから始まる大学生活をより具体的にイメージし、どんな大学生活を送りたいのかを考える
- ③4月から同じ学部で学ぶ仲間との交友関係を構築する

■プログラムの内容

I 全体講義 … 先輩の大学生活における体験や活動を開く
II グループワーク … ①総当りインタビュー
②グループ内で意見交換~「高校生と大学生の違い」
③教室内で意見交換
④先輩からのメッセージ ~大学生活を考えるキーワード~

9

MATSUMOTO UNIVERSITY

集合セミナーの様子 ~全体講義~

■先輩学生によるパネルディスカッション



先輩の体験談を聞き、これから始まる大学生活をより具体的にイメージする。

先輩の話聞いて、印象に残ったことやもっと知りたいと思ったことを整理する。

10

MATSUMOTO UNIVERSITY

集合セミナーの様子 ~全体講義からグループワークへ~



グループワーク会場への移動の様子

グループワーク開始前の様子

グループワークのねらい ①新入生友達づくり
②「高校生と大学生の違い」について意見交換

11

MATSUMOTO UNIVERSITY

集合セミナーの様子 ~グループワーク~

■先輩学生の係わり ~新入生の緊張をほぐし、交流を円滑にする~



12

MATSUMOTO UNIVERSITY

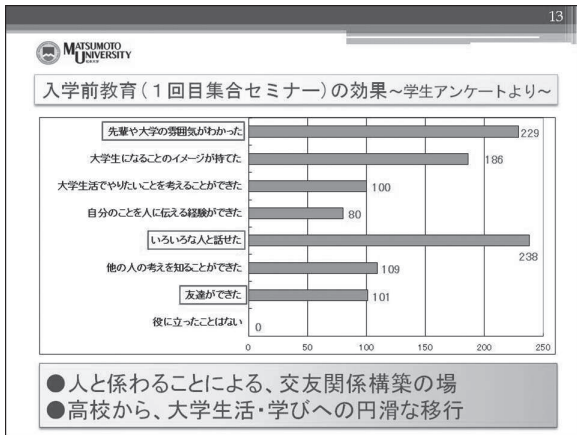
集合セミナーの様子 ~グループワーク~



■先輩学生の働きかけにより、会場全体が明るい雰囲気！

■グループが打ち解けたところで、先輩学生の進行にしたがって、「高校生と大学生の違い」について考える。

■「先輩への質問タイム」による不安の解消



14

MATSUMOTO UNIVERSITY

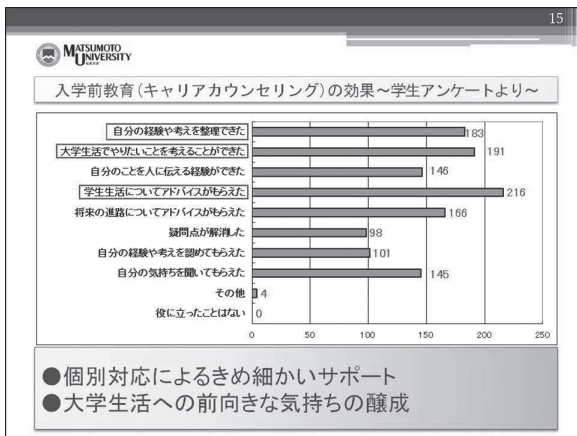
(2) 2回目 「キャリアカウンセリング」 ～2月～

■「キャリアカウンセリング」のねらい

- ①大学生活に向けての期待や前向きな目的意識の醸成
（「ありがたい大学生活のイメージ」「なりたい自分像」の具体化や掘下げ）
- ②入学前の不安な気持ちの聞き出し、受け止めと軽減
- ③入学者一人ひとりの状況把握

■キャリアカウンセリングの実施方法

- 1人45分の個別面談
- 専門のキャリアカウンセラーが対応
（CDA、CCDF、産業カウンセラー等）
- 学生から非開示の要望があるもの以外は、学籍システムへ入力し、入学後の学生指導につなげる



16

MATSUMOTO UNIVERSITY

(3) 3回目 「プレ・オリエンテーション」 ～3月～

■本学における「プレ・オリエンテーション」とは

1回目「集合セミナー」
2回目「キャリアカウンセリング」
で描いたイメージを具体化するための場。

↓

■プログラムの目的

- ①大学での学び・履修・成績評価について理解を深める
- ②大学4年間で学ぶカリキュラムを理解し、自分の設定した目標と具体的に向き合う
- ③講義科目とその内容を知ることで、高い向上心を維持したまま大学での学びに繋げる

17

MATSUMOTO UNIVERSITY

(3) 3回目 「プレ・オリエンテーション」

■「プレ・オリエンテーション」の内容

I 全体会 … ①学部学科の概要や理念の紹介(DPの理解)
②大学での学びについて(高校との違いについて理解する)

II 学科別分科会 … ①カリキュラム説明(CPの理解)
②先輩学生の事例紹介
③時間割表作成ワーク
(具体的に1年次の履修科目を設定し、一週間の予定を作成)

自分の目標を、資格取得や科目名で表現し、計画を立てる。
先輩学生の事例を聞くことで、より現実的な計画を作成。
(先輩学生は、在学生や卒業生)

18

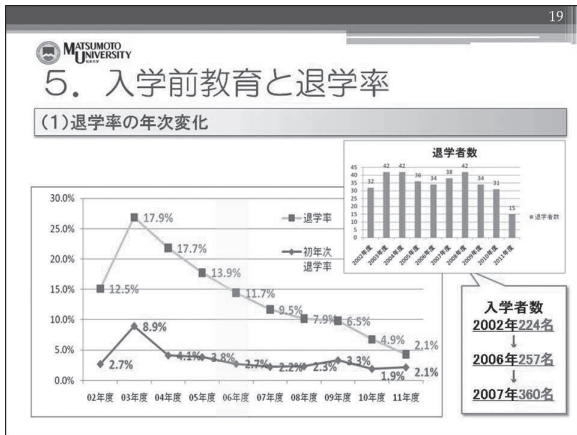
MATSUMOTO UNIVERSITY

(3) 3回目 「プレ・オリエンテーション」

■カリキュラムを理解することで、抽象的なイメージを具体化する。緊張感も高まりつつ、大学生としての自覚が芽生え始める。

■卒業後の進路、資格取得別に先輩学生の実際の4年間の時間割(履修内容)を紹介する。

■時間割作成ワーク時は、先輩学生が作業を手伝い、質疑応答に対応。緊張がほどけ、不安解消。



20

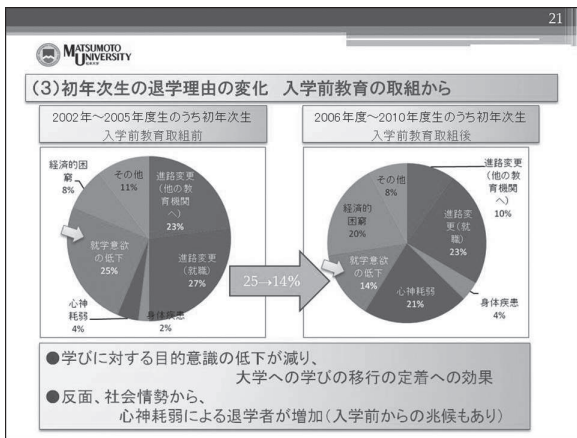
(2) 初年次生の退学率の変化

松本大学総合経営学データより

入学年度	入学者数	編入学者数	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	総計	初年次退学率	退学率
2002	224	33	6	4	6	9	5	2					32	2.7%	12.5%
2003	213	21	19	7	5	8	3						42	8.9%	17.9%
2004	219	18		8	5	9	8	7	2	2			42	4.1%	17.7%
2005	209	20			8	5	5	7	4	1	2		32	3.8%	14.0%
2006	137	10					1	5	4	3	1	2	16	0.7%	10.9%
2007	103	2						1	2	2		3	9	1.9%	8.6%
2008	109	7									3	4	3	1.8%	10.3%
2009	106	3									1	2	1	0.9%	3.7%
2010	93												1	1.1%	9.7%
2011	85												4	4.7%	4.7%
計			6	23	22	27	28	25	22	15	11	23	202		

入学前教育開始年度

入学前教育導入後から、初年次生の退学率が低下



- 23
- ## (2) 入学前教育の効果～教職協働のIRから分かったこと～
- 1 入学前教育の導入前後での退学率の変化
特に初年次での退学率の変化
 - 2 入学前教育の導入前後での退学理由の変化
前向きな理由か、ミスマッチングによる退学か
 - 3 これからの課題の明確化
初年次教育との連動
退学事由の徹底分析と追究
休学から退学への移行者の追跡・抑制



高校教員から見た大学入学前教育について

京都府立城陽高等学校 進路指導部長

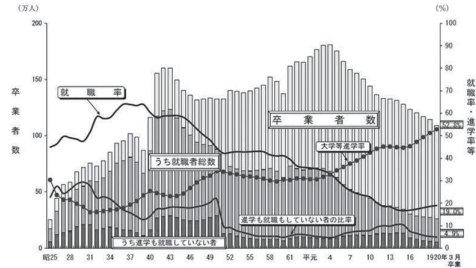
森下 昌彦

高校教員から見た 大学入学前教育について

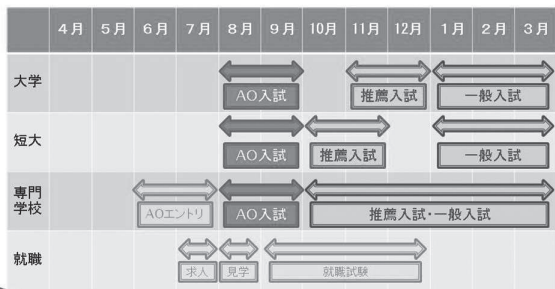
京都府立城陽高等学校
教諭 森下 昌彦

基本調査

卒業生数、就職者数及び就職率等の推移 [高等学校]



高校の進路指導の1年間



法的な要求

「合格から入学までの学習喚起」

各大学は、アドミッション・オフィス入試に限らず、すべての入試方法について、入学手続きをとった者に対し、必要に応じ、これらの者の在籍高等学校と協力しつつ、入学までに取り組むべき課題を課すなど、入学後の教育のための準備をあらかじめ講ずることが望ましいこと。

(平成21年3月31日文科省高等教育局大学振興課長 通知)

現実の要求



一般入試との時間の差

8月+9月+10月+11月+12月+1月 = 半年

入学前教育の対象

- 学力検査を実施しない年内入試
 - ◇AO入試
 - ◇特別入学者
(指定校推薦・高大連携・スポーツ推薦・課外活動・帰国子女・同窓...)
- 学力検査を実施した年内入試
 - ◇公募制推薦

入学前教育 具体例

- ① 大学からの通知(どこへ)
 - ア 本人のみ
 - イ 本人と高校
 - ウ 高校のみ
- ② 大学からの通知(どこから)
 - ア 大学から
 - イ 学部ごと

入学前教育の具体例 ガイダンス

参加は任意(参加することが望ましい)

- ◇大学から
建学の精神、歴史・伝統、入学生への期待...
- ◇在学生から
履修方法、課外活動、大学生活...
- ◇新入生どうして
交流会、友達づくり、...

入学前教育の具体例 国語

◇漢字の書き取り

- Q 次のカタカナの部分を漢字に直しなさい。
 - ①コクセキ不明 ()
 - ②センモン学校 ()
- Q 次のカタカナの部分を四字熟語に直しなさい。
 - ①リンキオウヘンに対応 ()
 - ②イツセキニチョウの名案()

入学前教育の具体例 国語

◇課題図書

- ◇テーマを与えた「作文」
 - ・『大学生になってやってみたいこと』
 - ・『大学生になる決意』
- ◇短文を読ませて「小論文」

入学前教育の具体例 数学

◇高校以前の復習

- Q 次の計算を答えなさい $\frac{1}{3} + \frac{1}{4}$
- Q 濃度15%の食塩水300gに含まれる食塩の量を求めなさい。
- Q 虫食い算、数独

入学前教育の具体例 数学

◇高校の復習

- Q $\int_1^2 x^2 \log x \, dx$ を計算せよ
高校 数学Ⅲ
- Q 原点のまわりに $\frac{\pi}{3}$ の回転を表す行列を求めよ。また点 (x, x) の像を求めよ。
高校 数学C

入学前教育の具体例 英語

- ◇中学校からの復習
 - be動詞の疑問文・否定文
This is his car. → 疑問文へ
 - 一般動詞の肯定文
3単現のS
 - 一般動詞の疑問文・否定文
You live in Tokyo. → 疑問文へ

入学前教育の具体例 英語

- ◇単なる穴埋め
- ◇語句整序
- ◇長文読解
- ◇e-learning

入学前教育の具体例 その他

- ◇Wordの使い方
- ◇メールの使い方
- ◇PowerPointの使い方

入学前教育の具体例 短大編

- ◇学科の内容にあった明確な課題
 - ピアノ学習 → 幼児教育
 - 化学の計算 → 食物栄養
- ◇キャリア教育
 - 社会に目を向ける 新聞

入学前教育の具体例 まとめ

- ◇単なるドリル形式では...
- ◇何を期待するか？
 - 「正解」のある世界から
「正解」のない世界へ
 - 「スキル」から「知の総合」へ

現状の何が問題なのか？

- キーワード
 - 大学全入時代
 - 多様化
 - 入試の早期化

現状の何が問題なのか？

大学入試

受験生に対する最大のメッセージ

(例)「〇〇大学らしい問題」

(例)「××学部だから面接では
××学部らしい質問」

現状の何が問題なのか？

入学前教育の一部には

受験生(保護者・高校)へ
メッセージが欠けていること！

大学の思い

少しでも「就職」に有利にな
るように！

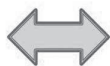
現状の何が問題なのか？

大学入試

AO入試

推薦入試

一般入試



入学前教育

事前課題

e-learning

就職試験の実態を知らない

入学前の高校生にとって「ギャップ」がある

ご静聴ありがとうございました。